

医薬品産業強化総合戦略について

秋も深まり、全国各地からの紅葉の便りとともに初冠雪や初雪の知らせなども届いています。スポーツの世界もフィギアスケート大会が開催されるなど季節の変わり目を感じさせられます。プロ野球も今週末から日本シリーズ、今年はセ・パ両リーグともにレギュラーシーズンを制したヤクルトとソフトバンクとの戦いとなりました。就任1年目でリーグ制覇した真中、工藤両監督の采配や、トリプルスリーを達成した山田、柳田両選手のプレーなど興味深い試合が期待されます。

通常国会は最重要案件の安全保障関連法案が与党並びに野党3党の賛成多数で可決成立して先月末に閉会となり、10月7日には第3次安倍改造内閣が発足しました。私は約1年間にわたり文部科学副大臣を務めてきましたが、後任の義家副大臣と富岡副大臣のお二人に引き継ぎを行い、その大任を無事終えることができました。一緒にお仕事をして下さった文部科学省の皆さんをはじめ関係各方面の方々に心より感謝申し上げます。

さて、厚生労働省は9月4日に「医薬品産業強化総合戦略～グローバル展開を見据えた創薬～」を策定し公表しました。知的集約型産業である医薬品産業は我が国の経済成長を担う産業一つとして大いに期待されているところでありますが、日本の製薬企業は欧米グローバル企業に比べて規模が小さく、創薬を巡る国際競争が一層厳しく、開発費用が年々高騰する状況において、我が国の創薬産業が生き残りを果たすためには、産業構造の見直しやイノベーションを生み出す力を最大限に発揮することが求められています。本年6月に閣議決定された骨太の方針2015においても、後発医薬品の使用促進に併せて「基礎的な医薬品の安定供給、創薬に係るイノベーションの推進、新薬の適正評価を通じた医薬品産業の国際競争力の強化に向け必要な措置を検討する。」としており、こうした骨太の方針も踏まえ、後発品医薬品の数量シェア80%以上を目標とする国内医薬品市場の環境変化にも対応し、「良質な医薬品の安定供給」、「医療費の効率化」、「産業競争力の強化」を三位一体で実現するための、緊急的・集中実施的な総合戦略を策定したとしています。

総合戦略の中にも記されていますが、産業界においてはグローバル競争に真に打ち勝つことのできる企業となるべく、資本力、研究開発力、グローバルな人材確保等の企業力の強化への取り組みに期待したいと思います。